

災害・感染症発生時の看護提供体制支援

1 被災者の健康支援事業（石川县委託事業） 担当：和田

1. 目的

能登半島地震後、長期にわたる避難生活等から被災者への継続的な健康支援が必要である。被災市町の業務を支援するためにも、保健師等の専門職を派遣することで被災者の健康維持を図る目的で、看護職人材派遣の調整と健康支援等をおこなう。

2. 支援対象（派遣市町）

輪島市、珠洲市、穴水町、能登町、七尾市、志賀町、その他被災者が居住する県内市町

3. 実施時期

令和6年8月1日から令和7年3月31日

4. 支援（派遣）業務内容

石川県からの委託事業であり、被災市町の要望に応じて下記の業務内容を行う。

- 1) 避難所巡回（避難所の衛生管理、被災者の健康相談対応等）
- 2) 仮設住宅訪問、在宅被災者宅訪問（健康状態の確認、健康相談対応等）
- 3) 要支援者への訪問等によるフォロー
- 4) 仮設住宅集会場等での健康相談対応、サロンでの健康教育の実施等
- 5) その他の健康支援業務

5. 事業の流れ

1) 派遣の要望

派遣希望市町は、管轄の県保健福祉センター経由で「被災市町等における保健師・看護師応援派遣要望書（様式1）」を当看護協会に提出する。

2) 派遣調整及び派遣

派遣者を手配し、派遣の有無、派遣者氏名・職種を管轄の県保健福祉センターを通じて市町へ連絡する。

3) 保健師・看護師の派遣

市町や県保健福祉センター等と事業打ち合わせを行い、看護職を派遣する。

4) 活動記録の報告

(1) 派遣者による支援活動について、「支援活動実績報告書（様式2）」により、派遣市町および県保健福祉センターへ報告する。

(2) 毎月の支援活動実績を「支援活動実績報告書（様式2 および様式3）」により県健康推進課へ報告する。

6. 派遣看護職の登録状況

保健師、助産師、看護師 49名登録

7. 活動実績

8.

4市町において延べ766人を支援（R6.10月～R7.3月）

市町	活動内容	活動日数	支援者 延人数	派遣看護 職数
穴水町	・サロン会場での血圧、体重測定 ・健康講座（手洗い等感染予防、軽体操、フレイル予防等） ・健康フェスタでの健康相談	13日	仮設在宅被災者等 229人	実 7名 延 24名

能登町	・在宅被災者宅訪問での健康調査、血圧測定、健診等勸奨	21日	在宅被災者 521人	実 6名 延 46名
輪島市	・在宅被災者宅訪問での健康調査、健康相談	2日	在宅被災者1 5人	実 1名 延 2名
志賀町	・要支援者のフォロー相談（電話）	1日	在宅被災 1人	実 1名 延 1名
合 計		37日	766人	実 12名 延 73名

※珠洲市は、要望あるも調整・日程が合わず実績なし
七尾市は、R6年度の要望なし

9. まとめ

被災市町からの要望に応じて、看護職を派遣した。お互いどのような支援が効果的であるか手探りの状態から進めたが、実績は延37日、延73人の看護職を派遣した。

登録派遣看護師の居住地は、奥能登地区14.3%、中能登地区61.2%、金沢近辺等16.3%であり、地元の人材確保が困難であった。受援市町は、遠方から来ていただくことが申し訳ないとの遠慮の声が多く、派遣者も地理的なことや市町の保健・福祉サービス等がわからなく戸惑うとの声が聴かれ、情報提供が不足であったと反省する。地元の潜在看護師が適材であるとわかっているが、うまくマッチングができなかった面も多くあった。

市町と事前に打合せを行い市町職員の負担軽減ができるよう努めた。限られた情報の中で、孤立・不安感を持つ被災者との会話を大事にしながら寄り添って話を聴くことで、幾分か役立ったのではないかと感じる。また、隣近所の人がいなくなり、相談できる機会もなく、訪問の必要性や対面で関わることの大切さも感じた。

2 感染症対応における人材確保事業（石川県委託事業）

担当：和田

1. 目的

新興感染症等の発生やまん延に伴う感染症健康危機が発生した際に、IHEAT 要員として登録されている在宅保健師等の専門職に対し、保健所等の支援に即応できる人材養成のため、研修及び訓練を行い、知識を深め、対応力を身につけることを目的とする。

また、人材バンクに登録する IHEAT システムを構築することで IHEAT 要員の確保につなげ、保健所等への応援派遣体制を図る。

2. 実施期間

令和6年8月1日から令和7年3月31日

3. 対象者

石川県内の保健所等への支援を想定しているため、石川県内居住または勤務地の IHEAT に関心がある看護職と IHEAT 運用システムに登録されている IHEAT 要員。

4. 事業内容

- 1) IHEAT 事業の周知、IHEAT 要員の登録・管理
- 2) 研修の企画・実施

5. 研修会実施内容

- 1) 事前学習
 - e-ランニング（一般社団法人日本公衆衛生協会作成教材活用）
- 2) 講義
 - ・感染症に対する基本的知識
 - ・感染症法の取り扱い
 - ・積極的疫学調査方法

- 3) 演習
- ・感染防護具の適切な使用および着脱方法
 - ・手洗い方法
- 4) ロールプレイング
- ・積極的疫学調査

6. 研修会実施状況 実14名 延べ32名 参加

日時	会場	方法	内容	講師	受講者数
R6.9.17 ～ R6.10.17	オンライン	e-ラ ンニ ング	・IHEAT とは ・健康危機管理 ・感染症の基本的知識 ・積極的疫学調査の位置づけ ・応援者、受援側の準備と留意点 ・心理的応急処置 等		12名
R6.10.30 13:00～ 16:30	石川県立図書館研修室	集合	<講義> ・IHEAT 運用変更点 ・感染症の基本的知識 <演習> ・PPE の着脱方法 ・手洗いの方法	石川県健康福祉部 森田真帆 感染管理認定看護師 架間ゆき子	8名
R6.11.26 13:30～ 16:30	石川県立図書館研修室	集合	<講義> ・積極的疫学調査 <ロールプレイング> ・電話での積極的疫学調査 聴き取り	金沢学院大学教授 小林勝義 石川県健康福祉部 森田真帆 金沢市保健所 永井美紀	12名

※集合研修2日間日程修了した方 7名に修了証を交付

7. IHEAT 要員登録状況

- ・石川県 IHEAT 要員 94名 (R7.3.31現在)
- ・職種別内訳

職種	人数
医師	4
保健師	15
助産師	2
看護師	70
理学療法士	3
合計	94人

8. まとめ

令和6年度から石川県と金沢市から事業委託を受け、IHEAT 要員の周知、登録・管理と研修会をおこなった。

参加者の中からは、実技は確認できる機会となり、とてもよかったとの声が聴かれた。アンケートでは、研修内容は理解でき、おおむね実践できるとのことで、繰り返し体験することで、身につく様子であった。

研修会開催日を平日としたが、潜在看護職より従事している方が多く、参加者数は1割程度と少なかった。今後は、平日と休日等参加しやすい日時を検討していく必要がある。

感染症に関する情報は日々変わっていくため、常に最新情報を提供するとともに、即時対応できるよう、今後も演習など組み込みながら対応できるようにしていかなければならない。